

シンポジウム 「発達性ディスレクシアのある中学生への支援」

文字や単語の読み書きの習得において、知的能力や環境要因では説明できない困難を「発達性ディスレクシア」と呼びます。音読の困難、書字の誤り、漢字の習得困難などで学童期に気づかれることが多く、小学校においてはさまざまな支援が行われるようになってきました。しかし、中学校における理解や支援は小学校に比べると不足しています。

このシンポジウムでは、発達性ディスレクシアを抱える子どもたちが、中学校でどのようなことに困難を感じて、どのような支援を必要としているか、私たちの調査や実践を通して明らかとなったことを紹介します。

それを踏まえて、これからの支援のあり方について、皆さんと一緒に考えたいと思います。

日時

2023年 3月21日（火・祝）
13時～15時

場所

北海道大学 + オンラインで開催

- ・現地参加（定員40名）：
北海道大学人文・社会科学総合研究棟 W410
駐車場はありません、公共交通機関でお越しください。
- ・オンライン参加（定員90名）：
申込後に参加方法をお知らせします。



話題提供

- 1：中学校における困難と支援の実態：RTI3層対象児の追跡調査より
北海道大学教育学研究院 関あゆみ
 - 2：中学校におけるノートテイキング
北海道大学教育学院修士課程 尾崎里帆
 - 3：ディスレクシアのある中学生の英語能力
北海道大学教育学院修士課程 辻万里奈
 - 4：小学校から中学校への移行支援：ディスレクシア支援室での取り組み
北海道大学教育学院博士課程 柳内景太、修士課程 錦川拓海
- コメント：国立成育医療研究センターこころの診療部 小枝達也

申し込み

以下のURLもしくは右のQRコードよりアクセスし、必要情報を記入して送信してください。

<https://forms.gle/fRHL2AkHbRsyWUQ18>



×切

3月17日（金）24：00

*定員になった場合はその時点で締め切らせていただきます。

問い合わせ先：北海道大学教育学研究院 関あゆみ seki@edu.hokudai.ac.jp

本シンポジウムは北海道大学大学院附属子ども発達臨床研究センター／子ども臨床研究部門「研究と臨床のための交流会」の一環として行われます。

*本シンポジウムに関わる研究の一部は、JSPS科研費17H02713の助成を得たものです。

